

# 現代中国の数学者

## 雑誌記事目録

清水達雄

「1949年4月29日、「中共軍」南京占領。この年の五月祭に、「中国の数学者」を掲載した『Annals of Mathematics』の論文頭、中国人名を拾い出して表にし、なおChernを紹介し、矢野先生に書いていただいた。50年6月、朝鮮戦争がはじまる。岩澤先生の渡米、横浜からのフレジデント・ウィルソン号出港をお見送りした。

—

数学科は卒業し、もっともまもなく会社で務められるような) 学科を出なさい」ということで、経済学科に学士入学していた。岩澤先生からは、数学は自分の問題さえ持っていれば、どこにいてもできます、と云い残された。大教室での、黒板なしでの語り、間延びして退屈、ほとんど出席せず、フプリントで試験は済ませた。数学教室のほうには顔出ししていて、銀林君から遠山先生らの数学教育協議会の設立趣旨(草案)を見せられ、参加した。経済での締めくくりに、外国語講読は古谷先生につま。Cournot: Recherches sur les principes mathématiques de la théorie des richesses, 1838. このりわは捕手と勤めた。現代経済学説の講義は満席文見た。古谷先生は渡米される。ともかく一応まともな学科を出たので、大学院に進む。学部が別はなく、弥永先生に代数の研究というところでお願いをした。

数教協では「研究と実践」誌を52年9月に創刊、その11月に日教組の「外国教科書展示会」があり、中国の目に驚かれた。主として、読書は熱心に読み、輸入雑誌の発音矯正の読解法も身につけていた。新聞でも「中共の教科書」が特に取上げられ、数学のレベルが低いとされたが、偏見からの誤報が正された。中国の数学教育の紹介が、一つの受持介となる。もう一つが、いわゆる「実務」、金銭出納や損益、株式や複利、保険や税。遠山編「新レノ数学教室」新評論社、53年11月の第11「9話」では奥野・湯山さんへの貢献の共同研究で、53年3月27-29日の福島教科研に赴いてもある。一方、数学科では数学方法論研究会（仮称）が生まれ、後に新数学会（S.S.S）となるが、その旗揚げのよびにこれ。

「今日、山脈、数学」を図書新聞の53年5月9日付に掲載した。数学者のアメリカ流出を訴えた。安藤孝太郎「変革と知識人」のIV章祖國へ帰る自然科学者が、在米中の華羅庚が祖國からの呼びかけにこたえて帰国した話だ。Hua Loo-Keng として、49年の五月祭に提示したわけだが、遠い意味を持つ。53年の五月祭にこの華羅庚を紹介、さらに中国数学者の来歴・現状・未来の総括的に紹介と東大学生新聞6月4日に載せた。その5月31日から6月3日にかけて数学会の春の例会が東大で行われ、6月2日夜、若手数学者二十名程の懇談があった。主催者は新数学会、それに九大の民科準備会、東工大の遠山研究室、都立大民科等の代表者、更に名大、教育大の有志も参加して活発に意見を交換した。特に出席した遠山啓氏より「今迄学界の長老諸賢は、どうい、た実情に全く気が付かぬ



月報第1号2頁に「光は西方より」と題して報じらへつゝに、東大数学科では、今年5月祭に「華羅庚」展を行つた。この準備のひとつとして華羅庚氏に送つた手紙の、田方増氏による返信が、6月末に届つた。以下に、この返事の内容全文を掲げる。とりあへず清水運雄が訳出してみたもの、誤訳は次号で訂正したい。

東京大学理学部数学科の全学生さん：  
1953年3月28日付の華羅庚所長に宛てたお手紙は、たしかに載しました。

まず、あなた方に対して、謝意を表明させていただきます。

華羅庚先生が公務のため出国されてい

て、あなた方へ希望される時期に返事を書く事ができないのですが、お詫しとねがい

ます。先生が帰国後に、お手紙を渡しま

しょう。先生は非常に褒められるだろうと、私も信じております。

あなた方は、数学工作者となつて自分の平和事業中の職責を理解し、正しい方向と観点とを追究して、数学の一層の発展を希い、また人類の利益に服務されておられる。あなた方の近年の五月祭での活動は、

平和事業と各国人民相互間の理解に貢献し  
ている。あなた方は、数学発展史の研究に  
力を注ぎ、また理論の実際との関連とい  
う原則問題を提出されている。また、彼等  
で「たうめな数学者達」が人類に危害を加え  
る活動に参加していることを、批判しよう  
とされる。あなた方は困難な環境の中に在  
って、これ等の光榮ある任務を背負い、ま  
たこのように様々な努力をされ、まことに  
敬服させられます。私達は、過去の反動統  
治時代中、私達中国の進歩的知識人が同じ  
ように遭遇したことを、連想するのです。

私達に、あなた方の現在の努力に対して、  
最大の同情と関心とを表明させて下さい。  
あなた方は、華羅庚先生の「米國留學  
生に於ての公開状」と「一数学工作者の「実  
踐論」と「矛盾論」を學習して、まず理解し  
たことと、日本文に翻訳し、これらの中  
心として、今年の5月際にも、なにかの  
関連した活動を準備されている。私達もこの  
ことが、あなた方の国の人々の、中国科学者  
の愛國主義に対する認識を、助けることを  
思います。これこそ、私達への歸心づき  
を強め、また私達を、数学発展の正しい途  
にのせて、つねに前進させてゆくものです。

華羅庚先生始め我国科学工作者の言論が、  
 あなた方の興味をひきつけたせ、あなた方の  
 信念を強めたとすれば、私達の深く光榮に  
 思うところです。  
 平和事業では、また数学と人民のため  
 に服務し斗争するものとすることを、私  
 達は道とひとつにします。私達は熱烈な祝  
 賀を送ります。あなた方が5月階での活動  
 で更に一步進んだ成功をおさめらるよ  
 うに！  
 1953年5月6日

中国科学院数学研究所 田方增  
 研究所所務処署  
 つぎの年の春、華羅庚の主著「堆疊素数論」を、神田神保町  
 内山書店で入手した。在人とか照を通し、序を認出、目次、  
 主要結果を紹介した。月報5号にのせし。数学会のいさゝか、  
 竜沢周雄君にお見せしたら、あ、とにあらうと、  
 うて、行くに行きまう。  
 「月報」に載った以上の三つを、文庫目録の先頭におく。  
 [1] 光は西方より、月報 No. 1。  
 [2] 中国からの手紙、月報 No. 2, 1953. 10. 15。  
 [3] 華羅庚の「堆疊素数論」、月報 No. 5, 1954. 5. 20。  
 No. 1の原稿を「手紙」に別、7月、筆跡から[1]は齊藤正彦君。

つてが  
[4] 新中国の数学教育に諸子、方・ふ・さん氏と人々、  
と1~2、啓林、46~7号、1956年4~5月  
と、ま・1955年12月20日  
と23・法政大学1955年館7階ホール  
主催・新数学人集団  
学術視察団の一員として来ると、蘇步青氏と、田んどの会、  
前準備は覚えているが、面会を計ったウイスキーとぶら下り  
宮崎浩君と二人で帝国ホテルを訪れる。お会いするの御挨拶は  
ス・フ・サン  
ス・サンが高く、ガバの、声調の一声・四声・一声なると、  
ふとて実際に耳にいて、印象に残る。宮崎君も帰り道に

ス・フ・サン、面白かったね。法政の55年館では、清水建設施工  
が工事途中で、と選んで、利用中止の受付に随分、  
お話し、三十人へ質問時間、清水・倉田・横地、  
私本浩君との質問、  
と、人々、入学試験にいくの差別、と、私達の  
と、と、  
御一人は、東北帝国大学理学部数学科に同級、昭和2年卒、  
蘇步青「射影曲線概論」、  
中国科學院數學研究所專刊 甲種 第2號  
に御署名、当日付の、書架にある、と、第1号は、華羅庚の  
「堆疊素数論」、第2号は、陳建功「直交級数論」、  
陳建功は、東北の数学科を大正12年(1923)卒業、帰国前に  
藤原松三郎に乞われて、  
「三角級数論」岩波、を著る。





[7] 徐遲, ゴルドバッチ予想, 清水達雄訳, 数学セミナー, 1978. 9-12月, 9月 p. 46-50, 以下 63-67, 67-71, 68-73. 「人民文学」1978年第1期の p. 53-68 の訳を, 筆者抜きで, 「新華字典, 日本語版」を介して「中日大辞典」への両辞書引いた。何れも訳し終える。当然に訳後の記事に続く。「ヤマト」24は大きな突破口になった。

[8] 廣瀬健, 中国見聞録, 教セミ, 78. 10, p. 42-47.

[9] 清水, 黄海と青天, 蝉時雨, 教セミ, 79. 2, p. 30-31. ようやく中国渡航を完了。ヒロシムに先王趙王のヤマト, 「略化王の漢字」で最初に「ヤマト」という漢字を「我々」が「ゴルドバッチ」で簡化字から訳している。「ヤマト」に「ヤマト」後には「道楽家」の「同船」の折に「先達格」の方で「ヤマト」の「ヤマト」

と大声を出した馬鹿のようだね。自戦無敗の無が「先」。「ヤマト」ト駈け天皇の宮庭に「ヤマト」の「ヤマト」トよく御存知で「ヤマト」。

とよく「簡化」字の歴史的な流れに沿って「ヤマト」を考えたよ。

[10] 井関清志, 中国の印象, 蝉時雨, 教セミ, 79. 3, p. 32-34.

[上記 [8] [9] を受けて書かれた。]

[11] 理由, 高山と平原, 数学看華羅庚についで, 白鳥富美子訳, 教セミ, 79. 6-9, 6月 p. 64-69, 以下 69-73, 81-86, 64-68.

[白鳥さんは中国研究所の方, お茶の水出身。続けた]

[12] 白鳥富美子, 中国の旅から, 教セミ, 80. 4-6, 4月 50-51, 以下 48-50, 52-54.

[13] 清水, ゴルドバッチ予想, 訳者後記, 教セミ, 80. 7, 82-83.

[14] 後藤守邦, 王憲鍾 (Hsien-Chung Wang) のこと, わ  
か師・わか友・わか数学, 数セミ, 81.4, P.39-43.  
[終り] 近くに出る, 曾祖父王憲榮, 諸稿「大漢和」にある.  
[15] 王元, 中国の解析的数論, 白鳥訳, 数セミ, 81.5,  
P.57-61.  
[16] 蘇步青, 仙台留学時代の思い出, 蘇德昌訳, わか師・わ  
か友, わか数学, 数セミ, 81.6, P.34-36.  
[17] (5) と, 関数論の分布論, 楊受氏, 未日, 数セミ,  
82.1, P.5 上欄囲み.  
[18] 蔡濟淵, 陳建功の学者としての生涯, 白鳥訳, 数セ  
ミ, 82.1-4, 1月 P.52-57, 以下 44-47, 58-61, 93-98.  
「訳」終えて, 1と, 実けの最後, 稿の訳訳の途中に,

方人びとに「王元先生」を思ふたが、今にこの部  
分を4に2ヶ月以上を費やした。中国の方々の科学者の口と  
人びとが文革中に陳建功先生と同様の運命にあつたといつても過  
言ではない。が、華羅庚先生、蘇步青先生方と多くの方々の再  
び明るに日を迎えて活躍してゐる。その明るに日の曙光の  
まじりて見え方、日に逝かたは陳建功先生の運命の悲痛さ、  
胸をうつものである。  
[19] 白鳥富美子, 王寿俊教授の来訪, 数セミ, 82.12, P.48.  
[20] 一松信, A. N. MAL'IN, 数セミ, 83.1, P.51 上欄.  
「光明日報」1982年11月1日号第4面, 中国の国家科委自然  
科学奨励委員会が最近選考した中国の科学者たちの著名な業績  
の公告。そのうち数学関係では、一等賞「コルツバ」ハ予想の  
研究、陳景潤・王元・潘承洞、二等賞...

[21] 白鳥富美子, 中国の二大数学史家 李儼と銭宝琮 人・思想・研究の方法, 数セミ, 83. 1-3, 1月 P. 29-31, 127-251-27, 78-82.

[22] 王元, 我的回想, 白鳥訳, 数セミ, 83. 4, P. 58-60.

「Y」のあとに因りて, 中国数学会代表団の来日, 団長は蘇步青, 団員は王元と胡生鏡.

[23] 蘇步青, 数学教育50年, 白鳥編訳, 数セミ, 83. 5, P. 65-68.

[24] 蘇步青, 中国に於ける微分幾何学の成長と発展, 数学, 第35巻第3号, 83年7月, P. 29-36.

1983年4月5日広島大学における日本数学会年会の総会講演懇親会で, ついで署名入りで載せる.

蘇步青「射影幾何学概論」

[25] 白鳥富美子, 華羅庚先生が来日への予定, 数セミ, 85. 7, P. 43.

[26] 白鳥富美子, 悲歌 華羅庚先生を懐う, 数セミ, 85. 8, P. 58-59.

[27] 森本光生, 華羅庚 (Hua Loo-Keng) 先生の最後の講義を聴いて, 数セミ, 85. 10, P. 51-54.

[28] 竜沢周雄, 華羅庚先生の数学的業績, 数セミ, 85. 10, P. 56-57.

[29] 白鳥富美子, 中国短信, 数セミ, 86. 10-12, 10月 P. 34-35, 以下 58-59, 57-59.

[30] 白鳥富美子, 中国科学史国際会議1987京都シンポジウムに参加して, 数セミ, 88. 1, P. 32-34.

[ ] の中国科学史国際会議は、1968年に82, 84, 86, 12  
 [ ] 88の予定であったが、要望もあり、殿内清之生が傘壽（望寿）に  
 [ ] は81歳の記念として、シンポジウム形式で開催された。  
 [ ] 数理科と生命科学とに大別、さらに11のセッショに分けられ、  
 [ ] 1の第1セッション、座長、村田全 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] 杜石然「江陵張家山竹簡《算數書》初探」 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] 討論者 川原秀城 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] 李迪「同達與中日數學交流」 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] 討論者 武田時昌 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] 2の報告は[30]、著者は[30]、謎を、同達に解き、[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] [31]清水達雄、揚州・東京・酒田、数学の心とこころ、大学へ  
 [ ] の数学、88.3, P.42-45. [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]

[ ] 1900年、揚州に生まれた知新塾長の周達平、演日の上野清、  
 [ ] 長沢龜之助と知り合う。三上義大が、周達平の一定理を知って、  
 [ ] トイツの「数学物理学」に紹介し、日本で話題と  
 [ ] なり、「東京物理学校雑誌」に寄稿、別証を添えられ、林鶴一が  
 [ ] 続報、しかし、[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] 問題」中に[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] 小倉の指摘を[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ]  
 [ ] シンポジウムに統一の夜に討論会、李迪と[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] 「中国数学簡史」山東教育出版社、1986と「秦九韶の《数書九章》」  
 [ ] 北京師範大学出版、1987に掲載。 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]  
 [ ] [32]清水達雄、長澤龜之助、明治期の数学の伝播者、数とこ、  
 [ ] 88.3, P.56-60. [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]

[33] 王青翔, 中国数学の30年代, 特集・1930年代は2人存時代だった数え, 92.3, P.36-37.

[34] 切手にあった中国人数学者, MATHCORE 数え, 92.3, P.110 上欄.

[4種連刷の左上に華羅庚さんが「ヤマト」に許可印, [4a] に出る.]

[35] 郭世榮・馮立昇, 李迪先生と中国科学技術史, 森本光生記, 数学史研究, 通巻195号, 2007年10-12月, P.24-39.

これに接したところ, 2-日録づくりを志した. 17日の1日, 「月報」初期のものを紙質も悪く縁もカビカビ化したものを4巻1号と「数学の歩み」と改題したものを「月報」最後へ3巻1号にある記事を見逃してゐる.

[4a] 東海のかや格 苏寿青氏より9紙「月報」3巻5号, 1956.5, P.40 右ト.

其後御無沙汰致しました.SSSの会員皆様の御活躍とお蔭を祈ります.

厚々SSSの雑誌や月報をお送り下さい. 誠に御礼致したい. 厚情に対して厚くお礼申し上げます.

随って私事, 帰国以来の間の用にて去る一月末から一と北京へ参りて居ります. 来月の末頃には上海復旦大学へ戻りますのでござります.

此間中国科学院の副院長竺可桢先生に逢つて小倉金之助教授のお話を申し上げた所. 副院長が大変喜んで居られ, 小倉先生の数学史に関する御論文と御著書を中国科学院に送って戴けるから非常に結構だと云はれまして, 中国科学院では小

